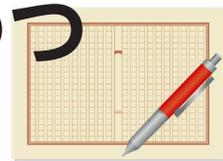




【小論文】 講師の部屋より ～原稿用紙をめくりつつ



今回は「きりはら小論文通信 第13号」より、小論文講師Kのメッセージをお送りします。

小論文講演会の講師を務めていると、さまざまな誤字や誤用にぶつかります。今回は生徒さんの答案に実際に書かれた例をいくつかご紹介いたします。

「× 講議 → ○ 講義」

K: 言語活動に関連しそうな文字はとりあえず「ごんべん」を付けておけ……という安易な覚え方をした私も、学生時代によくこの間違いを犯しました。

「× 活生化 → ○ 活性化」

K: これも多い間違い例です。ちなみに「活」の字について、私のような昭和人間は「経験を活かす」なんて書きますが、「活かす」の表記は常用漢字にありませんので、公文書は「生かす」で統一されています。学校でも私と同年代の先生と話をした際、「今の新人は大学で『生かす』が正しいと指導を受けた……と、私が起草した学年通信を直したがります（笑）」とお聞きしたことがありました。

「× ごみ捨い → ○ ごみ拾い」

K: このあたりは覚えるしかないですね。秀吉が「捨丸」と名付けた第一子に夭折され、第二子には「拾丸」と名付けたというエピソードが思い起こされ……るのはごく一部の方でしょうか。

「× シュミレーション → ○ シミュレーション」

K: 大人でも多い間違い例です。「趣味レーション」というのを見たときは、天才かと思いました。

「× 患者は医師と二足歩行で治療に努めることが重要だ → ○ 二人三脚」

K: 日本のロボットアニメでは「二足歩行」という設定が頻出ですので、生徒さんには強く印象付いているのでしょうか。

桐原のサクセス小論文は、生徒さんとの二人三脚で着実に小論文の力を伸ばしてまいります。

※「きりはら小論文通信」は話題のテスト内容のご紹介や、講師からのメッセージなどを掲載、年3回発行しています。こちらの紙面でもご紹介していきます。





英文校閲者のひとりごと⑧

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。



The Zen of the Coin Laundry

There is a place in my neighborhood which is open to the public. It is the local “coin laundry” (in American English it would be called a “laundromat”). I realized there is something unique about this tiny place. There are no words spoken there, just the sound of the dryers and the washers, and I am removed from the rest of the world for a short time.

The Laundromat is a kind of sanctuary. I don't have to worry about anything there. I sometimes go somewhere else on my bicycle, maybe back to my apartment, and come back a few minutes before the drying cycle is finished. I just focus on the sound of the machines and the movement of the clothes going round and round. I look at the signs on the wall, or the soap dispenser that nobody uses. I can think about life in a new way, come to a deeper understanding about the passage of time, waiting for my clothes to dry. The clock is ticking down to zero, and when it stops, I can take my clothes out and wear them again for a week or two, until it's time for the next washing. I may have achieved a Zen-like state because there is something very calming and reassuring about this quiet place.



筆者が描いたコインランドリーの風景

日本語訳 コインランドリーでの禅

私の家の近くには誰でも利用できる場所が1つあります。それはこの地区の「コインランドリー」で、アメリカ英語では laundromat（ロードロマト）と呼ばれるところです。この狭い空間には何か独特の雰囲気があることに私は気づきました。ここでは誰も話をせず、乾燥機と洗濯機の音だけが響き、ほんのつかの間、私は外の世界から自分が隔離されたような気分になります。

コインランドリーは一種の聖域なのです。そこでは何ごとも心配する必要がありません。洗濯中、私はときどきそこを離れて自転車でどこかに、たとえば自分のアパートに戻り、乾燥機が止まる数分前に戻ってきます。機械から発する音と、服がぐるぐる回る動きに私は耳を澄ませます。また、壁の貼り紙や、誰も使うことのないソープディスペンサー（液体石鹸の入ったポンプ式ボトル）を眺めます。そうしていると、服が乾くの待ちながら、人生というものを新しい角度から考え、時の流れにより深く感じ入ることができるのです。タイマーが残り時間ゼロになって止まると、私は服を取り出し、次に洗濯をするまでの1、2週間、再びそれを着ることができるようになります。この静かな場所には、心をとて落ち着かせ、安心感を与えてくれる何かがあることから、私は禅のような心境に達したのかもしれない。

